

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 6 月 4 日現在

機関番号：42502

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2011～2013

課題番号：23520267

研究課題名(和文)『琴操』を中心とした中国古琴曲および音楽説話の日本古典文学への影響に関する研究

研究課題名(英文) Research on the influence of Kinso (Qing Cao) and its tales to Japanese classical literature

研究代表者

正道寺 康子 (SHODOJI, Yasuko)

聖徳大学短期大学部・総合文化学科・准教授

研究者番号：70320702

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,900,000円、(間接経費) 1,170,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、まず『琴操』の翻刻・訓読をし語釈を附すことで、『琴操』そのものの研究を行った。次に、隋・唐時代の古琴曲を調査し、それらに纏わる音楽説話も収集し、さらには、日本古典文学への影響を明らかにした。特に、『琴操』は『うつほ物語』や『源氏物語』に大きな影響を与えていることが分かった。また、『琴操』以外の古琴曲も音楽そのものではなく、それらの音楽故事が『うつほ物語』や『源氏物語』の主題と深く関わることを指摘した。

研究成果の概要(英文)：First, I made a research of the original Chinese text of Kinso (Qing Cao) by reading in Japanese and putting glosses onto the text. Next, I investigated several pieces of ancient qin music (Chinese koto) of the Sui and the Tang age and collected tales concerning the music. Moreover, I examined the influence of Kinso and its tales on Japanese classical literature. As a result, it turned out that Kinso had an especially big influence on The Tale of Utsuho and The Tale of Genji. I also pointed out that the very tales, too, but not the music itself, of the ancient Chinese music other than Kinso are deeply concerned with the theme of The Tale of Utsuho and The Tale of Genji.

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：文学・日本文学

キーワード：音楽説話 古琴曲 七絃琴 古代日本文学 和漢比較文学 東アジア データベース 国際研究者交流

1. 研究開始当初の背景

漢～隋唐時代の七絃琴の古琴曲が日本に伝来し、日本古典文学に影響を与えたという事実は複数の研究者によってすでに確認されているが、その詳細については未解明のままである。

特に、漢代・蔡邕(132～192年)の『琴操』に載る琴曲については注釈書がないことから、『琴操』そのものの研究がほとんどされていない。そこで、まず『琴操』がどのような音楽説話を収録しているのか、その全体像を知る必要性を感じた。

さらに、『琴操』やそれ以外の古琴曲および音楽説話にどのようなものがあるのか、また、それらが日本古典文学にどのような影響を及ぼしているのかを明らかにすることは、日本古典文学における海彼の文学・文化受容の一端を解明するために不可欠である。

古琴曲は、七絃琴という楽器・思想、それに纏わる説話とも関わる。従って、音楽文献学等の隣接諸学を援用して、東アジアの音楽文化・文学の中で日本古典文学を考えてゆくことは、文学の生成を考える上で有益であると考えた。

2. 研究の目的

まず、『琴操』の翻刻・訓読をし、語釈を附すことで、『琴操』そのものの特質を解明する(a)。次に、隋・唐時代の古琴曲を調査し、古琴曲の全貌を示す(b)。また、(a)や(b)に纏わる音楽説話を調査する(c)。

(a)～(c)の一連の作業によって、七絃琴の古琴曲および音楽説話の全体像を明らかにする。

その上で、『琴操』等の古琴曲およびそれらに纏わる音楽説話を日本古典文学がどのように受容し物語が形成されていったのかを解明することを最終的な目的とする。

3. 研究の方法

下記の(ア)～(エ)の研究を遂行するため、個人研究と共同研究を連携させて展開した。

(ア)漢代・蔡邕の『琴操』の翻刻・訓読をしてインターネット上で公開(日本大学文理学部図書館との約束で2014年3月31日まで公開)、その後、語釈を附し冊子化した。(共同研究)

(イ)「碣石調幽蘭」、『初学記』、『藝文類聚』、『太平御覧』、『楽府詩集』、『唐書』等の歴史書より古琴曲を採集した。(個人研究)

(ウ)『神奇秘譜』(洪熙元(一四二五年)年)等の後代の琴譜を調査し、古琴曲の実態を類推した。(個人研究)

(エ)調査した古琴曲が日本古典文学にどのように残っているのか、また琴曲に纏わる音楽説話についても、どのように奈良・平安文学に取り入れられたのかを検証した。主として比較文学・文化論的な手法を用いたが、音楽文献学・宗教学・神話学・文化人類学等

の隣接諸学も援用して考察した。(個人研究・共同研究)

以上を踏まえた上で、次に具体的な研究の方法について示す。

(1)国内外での調査

2012年度に北京、2013年度には台湾で七絃琴に関する資料の収集を行った。七絃琴に関する図録や書籍等、中国側の七絃琴資料を大量に入手することができた。七絃琴(楽器)の専門店にも行き調査した。

古代中国音楽の掘り方を把握するために、2011年度に、韓国・大田大学日語日文学科の関丙勲教授に助言をいただきながら、韓国の国立中央博物館・国立国楽院・国立民俗博物館や古書店等も調査し、古代韓国音楽の資料収集を行った。韓国の楽器や伝統音楽についての研究はあるものの、音楽説話に関する研究は少ない。今後は、韓国に伝わった中国音楽を調査した上で、韓国の音楽説話との関連も研究し、東アジアにおける音楽文化の実態を解明する段階にきている。

国内においては、日本で入手可能な内外の七絃琴の研究書・研究論文を収集した。

(2)海外の研究者との連携・交流

古代中国音楽および音楽説話の研究については、海外研究協力者の劉曉峰教授、王維坤教授より助言を得た。

2012年度には、北京・清華大学にて古代東アジア文学研究会・研究発表会「『宇津保物語』と古代音楽交流史」を開催し、劉曉峰教授・雋雪艶教授等、中国側の研究者と意見交換を行った。さらに、物語研究会にて、シンポジウム「古代中国音楽と平安文学」(於日本大学)を開催し、研究発表をした。本シンポジウムに、中国西北大学の王維坤教授を招聘し、基調講演をしていただいた。王維坤教授および研究発表者と当日参加した研究者との間で活発な意見交換を行った。

最終年度である2013年度には、齋藤正志専任副教授(台湾・中國文化大學・外國語文學院日本語文學系)の協力のもと、中國文化大學のワークショップ「東アジア文化圏におけるクロス・カルチャーの様相」にて講演、2013年度臺灣日本文學會例會にて研究発表を行った。

4. 研究成果

(1)『琴操』について

後漢・蔡邕の『琴操』は、古琴曲の作者や由来、歌辞を記したものである。50曲を歌詩5曲・12操・9引・河間雜歌に分類し、4曲を除き全て解説が附されている。また、現存する清刊本『琴操』としては、讀畫齋本、平津館本、漢學堂本、宛委別藏本、漢魏遺書本の5種がある。

『琴操』に関する研究として、吉聯抗『琴

操（兩種）』（人民音楽出版社、1990年）には平津館本・漢魏遺書本が収録され、陳文新訳注『雅趣四書』（崇文書局）には平津館本『琴操』の注および現代中国語訳が収録されている。しかしながら、日本においては訓読がないことから、『琴操』研究は活発でない。そこで、平津館本を底本とし、宛委別藏本、漢魏遺書本を参考にして本文を校訂した上で訓読し、さらに語釈を附して冊子化した。

（「5. 主な発表論文等」〔図書〕の①参照）

『琴操』には『詩経』「小雅・鹿鳴之什」の「鹿鳴」詩、「国風・魏風」の「伐檀」詩、「国風・召南」の「騶虞」詩、「国風・召南」の「鵲巢」詩、「小雅・鴻鴈之什」の「白駒」詩の他に、孔子・舜・周公旦・文王・太王・莊王・曾參・莊周・霍去病・聶政・伯奇・伯牙・許由・介子綏・樊姬・伯姬・王昭君等といった人物に纏わる琴曲が収録されている。彼らは伝説の世界であるいは歴史上よく知られた人物で、他の文献では七絃琴との関連を見出せない人物であっても、七絃琴の琴曲として認識されていたことが分かる。

従って、彼らの故事が日本に伝来した時、『琴操』も伝来していることから、日本においても七絃琴と結びついて認識されていた可能性が高い。

今後は、『孝子伝』・『列女伝』・『蒙求』等との関連、あるいは『樂府詩集』の「琴曲歌辞」、『神奇秘譜』等の楽譜との関連を解明してゆく必要がある。

(2) 中国の古琴曲について

『琴操』以外の琴曲については、国宝「碣石調幽蘭 卷五」（東京国立博物館蔵）巻末の尾題に59種の琴譜の名目、『琴歴』、嵇康「琴賦」（『文選』巻18）、『樂府詩集』に載る琴曲を総合するとほぼその全体像を把握できる。それら古琴曲は音楽説話を有していることから、日本に伝来した時には琴曲が音楽故事と結びついて受容されたと考えられる。詳細については、(3)に記す。

(3) 中国古琴曲の日本古典文学への影響について

① 『琴操』の日本古典文学への影響

『琴操』に収録された琴曲は、平安朝物語文学（特に『うつほ物語』や『源氏物語』）に大きな影響を与えている。

研究代表者は、『うつほ物語』の忠こそに『琴操』の履霜操（伯奇の故事）、丹比弥行に『琴操』の龍地歌（介子綏の故事）の影響があることを指摘した。（「5. 主な発表論文等」〔雑誌論文〕の③参照）

また、『源氏物語』の光源氏須磨退去の場面に、『尚書』「金縢第八」と『琴操』「周金

縢」の周公旦の故事が複合的に形成されたものを見ることによって、須磨・明石巻の光源氏像を、研究協力者である笹生美貴子氏が明確にしている。（「5. 主な発表論文等」〔雑誌論文〕の⑧参照）

『琴操』の韻文への影響については、研究協力者である佐藤信一氏が、『菅家文草』の「琴」への影響を明らかにしている。（「5. 主な発表論文等」〔雑誌論文〕の⑩参照）

② 『琴操』以外の中国古琴曲・音楽説話の日本古典文学への影響

(ア) 韻文

漢詩文に残る琴曲としては、南風・関山月・折楊柳・流水・風入松・陽春・幽蘭・三挾流泉・烏夜啼・別鶴操・梅花三弄・沈湘怨・淶水・白雪・唐虞・王昭君・双鳳・梁父吟・楚妃歎・蔡氏之曲など約20曲の琴曲がある。

「流水」という伯牙の琴曲がしばしば『懷風藻』等の漢詩文に詠まれるが、散文には登場しないのが注目される。漢詩文に好まれて詠まれた琴曲と平安朝物語文学に登場する琴曲とは異なることが分かる。

(イ) 散文

古琴曲の平安朝物語文学、特に『うつほ物語』への影響を明らかにした。研究代表者は、『うつほ物語』において、胡笳の調べが蔡琰や王昭君の故事と結びついて、物語の主題と深く関わることを指摘した。蔡琰や王昭君の琴曲のテーマは「離別」であり、切利天の天女と「七人の人」の別離あるいは俊蔭一族の親子の別離を象徴する琴曲であることを明らかにした。（「5. 主な発表論文等」〔雑誌論文〕の③参照）

(4) 音楽故事の日本古典文学への影響について

音楽故事の物語文学、特に『うつほ物語』への影響を明らかにした。

研究代表者は、百里奚の故事が『うつほ物語』の実忠物語に影響を与えている可能性を指摘した。（「5. 主な発表論文等」〔雑誌論文〕の①参照）

また、伯牙と嵇康の音楽故事が『うつほ物語』に与えた影響について、両者が融合した形で影響を及ぼしたことも明らかにした。

『蒙求』では伯牙と嵇康を並列していることから両者が中国で既に強く結びついて認識されていたことが分かるが、「樹下弾琴図」といった図柄によっても両者が分ち難く混合・混同されて物語に反映されたと考えられる。（「5. 主な発表論文等」〔雑誌論文〕の⑩参照）

従来、伯牙の故事の『うつほ物語』への影響は少ないとされてきたが、その影響は非常に大きく、物語のバックボーンとなっていることを今後、別稿にて明らかにする予定である。

以上、『琴操』および中国の古琴曲の全体像を明らかにし、それらの日本古典文学への影響を明らかにしたことを述べた。

今後も、実際の琴曲、楽譜、音楽説話は分けて考えられるべきであり、それらがどのような形で受容されたかを精査することで、平安朝物語文学の生成の過程が解明できるであろう。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 14 件)

- ①正道寺康子、『うつほ物語』実忠物語と百里奚の故事、聖徳大学短期大学部国語国文学会『文学研究』、25 号、査読無、2014、52-58
- ②西口あや、『源氏物語』における音楽—音楽的側面から見た光源氏と末摘花・源典侍一、白百合女子大学国語国文学会『国文白百合』、45 号、査読無、2014、13-24
- ③正道寺康子、『うつほ物語』の音楽—音楽故事の影響を考える、『アジア遊学 東アジアの音楽文化』、勉誠出版、査読無、2014、10-23
- ④岡部明日香、『うつほ物語』あて宮の精神的流離と『琵琶行』—「内侍のかみ」・「蔵開」を中心に、『アジア遊学 東アジアの音楽文化』、勉誠出版、査読無、2014、24-35
- ⑤劉曉峰、東アジアにおける声のロマンス—『うつほ物語』の音楽文化史的背景、『アジア遊学 東アジアの音楽文化』、勉誠出版、査読無、2014、36-48
- ⑥原豊二、『うつほ物語』と遣唐使—「中華意識」をめぐって、『アジア遊学 東アジアの音楽文化』、勉誠出版、査読無、2014、49-61
- ⑦笹生美貴子、『うつほ物語』から『源氏物語』へ—音楽研究史概観、『アジア遊学 東アジアの音楽文化』、勉誠出版、査読無、2014、62-67
- ⑧笹生美貴子、平安朝物語文学における琴(きん)と夢、『アジア遊学 東アジアの音楽文化』、勉誠出版、査読無、2014、73-88
- ⑨王維坤、中国出土の古代楽器と音楽文化—隋唐墓から出土した伎楽備と楽器を中心として、『アジア遊学 東アジアの音楽文化』、勉誠出版、査読無、2014、108-124
- ⑩佐藤信一、『菅家文草』の「琴」、『アジア遊学 東アジアの音楽文化』、勉誠出版、

査読無、2014、151-163

- ⑪正道寺康子、『うつほ物語』『源氏物語』と樹下弹琴図、聖徳大学短期大学部国語国文学会『文学研究』、24 号、査読無、2013、23-36
 - ⑫岡部明日香、若菜下巻の女楽と白居易の音楽観について—『琵琶行』受容と「正声」の思想、『源氏物語と白氏文集』、新典社、査読無、2012、189-214
 - ⑬原豊二、「琵琶行」の音楽史的考察—楽器、楽人、楽制を踏まえつつ—、『白居易研究年報』、13 号、査読有、2012、124-150
 - ⑭岡部明日香、『琵琶行』と「水辺の女・流離の女」の系譜、『白居易研究年報』、13 号、査読有、2012、216-237
- [学会発表] (計 14 件)
- ①笹生美貴子、明石一族を取り巻く音楽の役割、古代文学研究会、於愛知淑徳大学星が丘キャンパス、2014 年 2 月 9 日
 - ②岡部明日香、釈奠佾舞—日本の釈奠儀礼と文学の記述—、和漢比較文学会東部例会、於大東文化大学、2014 年 1 月 25 日
 - ③岡部明日香、台湾における釋奠佾舞—学校教育との関連—、2013 年度臺灣日本文學會例會、於臺灣大學(台湾)、2013 年 12 月 28 日
 - ④笹生美貴子、源氏物語の音楽—明石一族を中心に—、2013 年度臺灣日本文學會例會、於臺灣大學(台湾)、2013 年 12 月 28 日
 - ⑤佐藤信一、『菅家後集』「慰—少男女—」論、日本中国学会大会、於秋田大学、2013 年 10 月 12 日
 - ⑥佐藤信一、『菅家後集』の「琴」(一)—本康親王との詠を中心に—、和漢比較文学会西安例会、於西安賓館(中国)、2013 年 8 月 31 日
 - ⑦正道寺康子、古代日本文学と中国の琴曲・音楽説話—『うつほ物語』を中心に、物語研究会例会、シンポジウム「古代中国音楽と平安文学」、於日本大学、2013 年 3 月 16 日
 - ⑧笹生美貴子、平安朝物語文学における琴(きん)と夢、物語研究会例会、シンポジウム「古代中国音楽と平安文学」、於日本大学、2013 年 3 月 16 日
 - ⑨佐藤信一、『菅家文草』の「琴」—『琴操』「白駒」との影響関係を中心に—、物語研

研究会例会、シンポジウム「古代中国音楽と平安文学」、於日本大学、2013年3月16日

⑩原豊二、『琵琶行』受容の一側面—音楽・楽器・楽人の視点から—、中古文学会関西西部第31回例会、於関西大学、2012年9月29日

⑪正道寺康子、『宇津保物語』の音楽—樹下弹琴図との関連、古代東アジア文学研究会・研究発表会「『宇津保物語』と古代音楽交流史」、於清華大学(中国)、2012年8月11日

⑫原豊二、『宇津保物語』と遣唐使、古代東アジア文学研究会・研究発表会「『宇津保物語』と古代音楽交流史」、於清華大学(中国)、2012年8月11日

⑬岡部明日香、白居易の音楽詠と古代物語文学—『宇津保物語』あて宮の精神的流離と『琵琶行』—、古代東アジア文学研究会・研究発表会「『宇津保物語』と古代音楽交流史」、於清華大学(中国)、2012年8月11日

⑭笹生美貴子、『宇津保物語』から『源氏物語』へ—研究史概観—、古代東アジア文学研究会・研究発表会「『宇津保物語』と古代音楽交流史」、於清華大学(中国)、2012年8月11日

[図書] (計3件)

①正道寺康子、原豊二、岡部明日香、笹生美貴子、佐藤信一、西口あや、『琴操』—本文・訓読・語釈、株式会社ビッグ・バーン、2014、167

②原豊二、源氏物語文化論、新典社、2014、348

③岡部明日香、紫式部の漢学世界—源氏物語と白氏文集・紫史吟評—、慈濟大學(台湾)、2013、253

[その他]

(データ公開)

①日本大学文理学部図書館所蔵『平津館叢書・蔡邕撰・琴操』(「原刻景印・百部叢書集成」嚴一萍選輯・藝文印書館印行)の書き下し文、正道寺康子・原豊二・岡部明日香・笹生美貴子・佐藤信一・西口あや、<http://www.geocities.co.jp/Berkeley/5649/>、2013年3月より2014年3月31日まで公開

②日本大学文理学部図書館所蔵『平津館叢書・蔡邕撰・琴操』(「原刻景印・百部叢書

集成」嚴一萍選輯・藝文印書館印行)の翻刻、正道寺康子・原豊二・岡部明日香・笹生美貴子・佐藤信一・西口あや、<http://www.geocities.co.jp/Berkeley/5649/>、2012年3月より2014年3月31日まで公開

(講演)

①102 學年度第1 學期中國文化大學日本語学科ワークショップ「東アジア文化圏におけるクロス・カルチャーの様相」、於中國文化大學(台湾)、2013年12月27日

正道寺康子、古代中国の音楽故事と日本古典文学—『うつほ物語』を中心に—

原豊二、うつほ物語と遣唐使—「中華意識」をめぐって—

佐藤信一、始発期における菅原道真の楽の音—『菅家文草』卷七「顯揚大戒論序」の読みを通して—

②物語研究会例会、シンポジウム「古代中国音楽と平安文学」、於日本大学、2013年3月16日

王維坤、中国出土の古代楽器と音楽文化—隋唐墓から出土した伎楽俑と楽器を中心として—

(公開講座)

「4. 研究成果」の(1)~(4)の研究成果について、最終年度に公開講座を開催し、研究者のみならず一般にも研究成果を公開した。

①聖徳大学言語文化研究所主催公開講座「東アジアの中の音楽と平安朝物語文学」、於聖徳大学、2014年2月22日

正道寺康子、『うつほ物語』の音楽—絵・説話・琴曲との関連—

原豊二、遣唐使と音楽—物語文学の七絃琴を中心に—

笹生美貴子、『源氏物語』明石一族の栄達—楽の音と夢の連携がもたらすもの—

6. 研究組織

(1) 研究代表者

正道寺 康子 (SHODOJI, Yasuko)

聖徳大学短期大学部・総合文化学科・准教授

研究者番号： 70320702

(2) 研究分担者

原 豊二 (HARA, Toyoji)

米子工業高等専門学校・一般科目・准教授
研究者番号： 50311064

(研究協力者)

岡部 明日香 (OKABE, Asuka)

慈濟大學・東方語文学・助理教授

佐藤 信一 (SATO, Shinichi)

白百合女子大学・国語国文学科・教授

笹生 美貴子 (SASO, Mikiko)
日本大学・文理学部・非常勤講師

西口 あや (NISHIGUCHI, Aya)
白百合女子大学大学院・言語・文学専攻 (博士)

王 維坤 (WANG, Weikun)
西北大学・文化遺産学院・教授

劉 曉峰 (LIU, Xiaofeng)
清華大学・歴史系・教授